【わくわくワークス】
“けいせん・じゃばらうちわ”の作り方

おうちでつくる紙工作「わくわくワークス」の作り方紹介、今回は「けいせん・じゃばらうちわ」の作り方です。

“じゃばらうちわ”は、じゃばら状にたたんだ絵をぐるりと一周させて広げると円形のうちわになる、江戸時代から伝わる携帯用せんすの一種です。ここでは、京都で活躍した日本画家冨田溪仙(とみたけいせん)の「普賢菩薩（ふげんぼさつ)図」を用いた“じゃばらうちわ”を製作することができます。元になった絵は、白い象さんによりそった仏さま（普賢菩薩）を描いた、とてもほほえましい作品です。

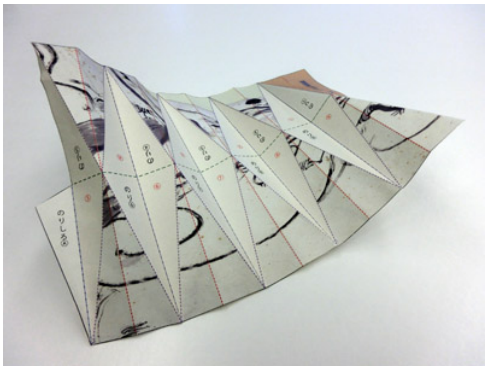
まずは「けいせん・じゃばらうちわ」の型紙を滋賀県立美術館のホームページからダウンロードしてください。ダウンロードした型紙は、家庭用のカラープリンタで印刷してください。プリンタが無い場合は、ダウンロードしたPDFをUSBメモリなどに収めてコンビニエンスストアに行けば、カラーコピー機で印刷できます（有料です）。またスマートフォンでダウンロードした場合は、各コンビニが勧めるアプリを入れれば、スマートフォンから直接、コンビニのカラーコピー機で印刷できます。詳しくは各コンビニエンスストアにご相談ください。

【けいせん・じゃばらうちわ】の組み立て方

作るのはかんたんですが、きれいに作るにはおり目をしっかりきれいにおる必要があります。いいかげんにおらないように注意して作りましょう。

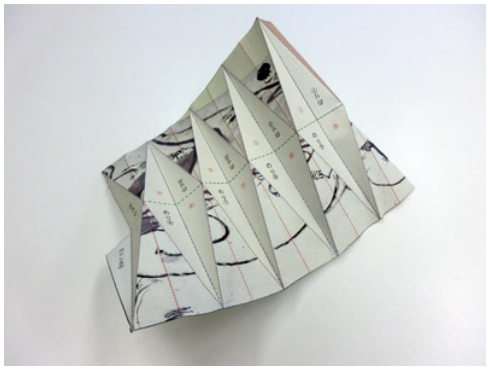
①まず、型紙から“けいせん・じゃばらうちわ”のパーツをきれいに切り取ってください。紙を切ったパーツ２種類のほかに、アイスのぼう（長さ12セ ンチくらいのもの）が２本、小さめ(直径２センチほど)のわゴムが１つ、必要となります。また、つまようじがあれば楽に作ることができます。

②紙のパーツには“おり目の線”がたくさんあります。まず、赤い点線（やまおり）と、青い点線(たにおり)を交互におって、右の写真のようなジグザグの「じゃばらじょう」にしてください。

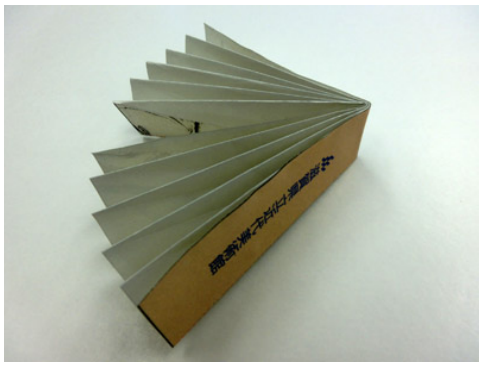


③いったん広げてから、こんどはむらさき色の線（やまおり）をおってゆきます。右上がりの線と右下がりの線の２しゅるいありますから、同じ方向のおり目ばかりをつづけておってゆくといいでしょう。まずは、右下がりの線から。

④こんどは、右上がりの線をやまおりにおってゆきます。

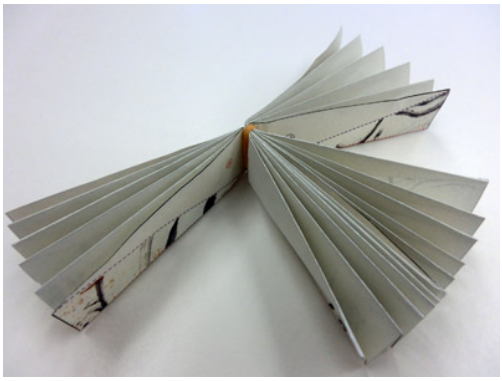


⑤ぜんぶおれたら、もういちど広げて、今度は赤いやまおりと青いたにおりの線をおってじゃばら状にします。

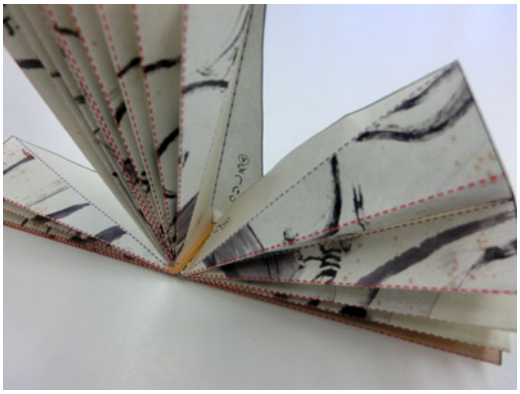


⑥ちゃいろの部分が外側になるよう、まん中で２つにおってください。なお、ここのおりかたがいいかげんだと、できあがったうちわがきれいな円形になりません。おった部分の長さがちょうど同じになるよう、注意ぶかくおってください。

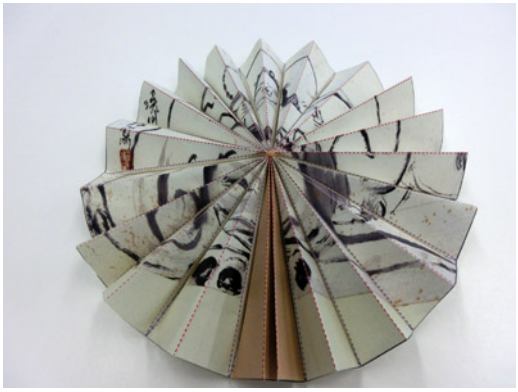
⑦もう一枚の紙パーツもおなじようにおり、２つをむかい合わせます。直径２センチほどのわゴムを１つ、よういしてください。わゴムのかわりに、糸や針金や細いモールでもかまいません。



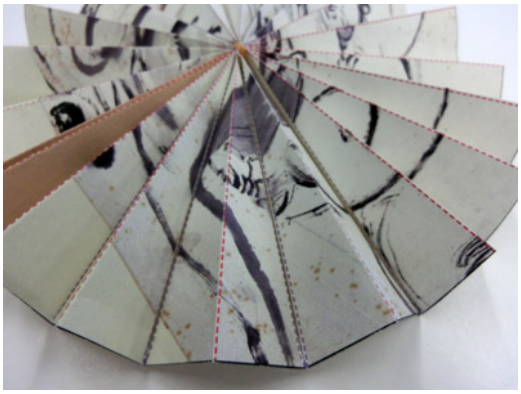
⑧２つにおったまん中のぶぶんにわゴムを入れて、２つのパーツをひとつに固定します（写真右）。



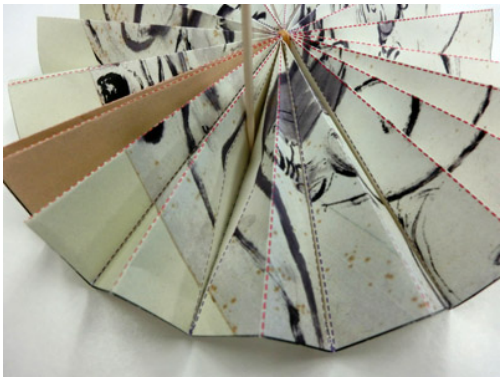
⑨２つのパーツがとなり合った部分と、わゴムをとおした部分に、「のりしろ」とかかれたヒレのようなものがあります。(A)(B)(C)の３かしょです。この「のりしろ」とかかれた面にのりをつけて、となり合った部分をひとつにつないでください。



⑩３かしょともつなぐと、きれいな円形になります。むらさき色のやまおりの線をおると、もっときれいな円になって、絵(ゾウさんによりそう仏さま)がよく見えるようになります。

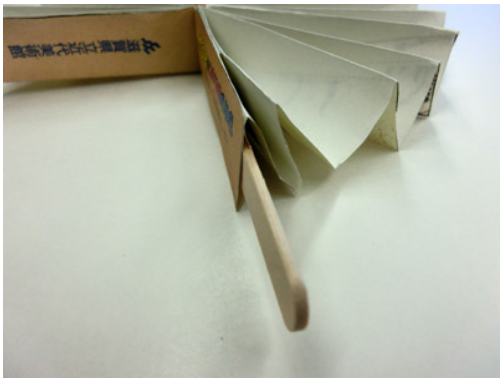


⑪むらさき色のやまおりの線どうしがむかい合う部分には、どれもすきまができています。このすきまをきれいにうめると、円がきれいになります。のりをつけて、すきまをうめてゆきます。



⑫むかい合った部分にのりをつけるのはむずかしいので、つまようじにのりをつけてぬるとよいでしょう。なお、のりはベットリとぬる必要はありません。ほんの少しだけ、ちょびっとつければじゅうぶんです。

⑬のりがきれいについたら、さいごにうちわの“え”をとりつけます。長さ 10 から 12 センチくらいのアイスのぼうを２本、よういしてください。あまり短かすぎると、でき上がったときにうちわがしおれておれてしまいます。



⑭ちゃいろの部分にアイスのぼうをさしこんで、のりではります。ちゃいろの部分のうらがわにのりをつけて、ぼうをはさむようにするとよいでしょう。これで「けいせん・じゃばらうちわ」は完成です。

【けいせん・じゃばらうちわ】のあそびかた

右の写真は、うちわをたたんだところです。２本のアイスのぼうをもって、ぐるりと円をかくように広げると、うちわが広がって えが出てきます。